



会 長 小林 幹夫 青少年奉仕 橋本八右衛門
副 会 長 道尻 誠助 幹 事 正部家光彦
クラブ奉仕 道尻 誠助 会 計 佐々木泰宏
会長エレクト 紺野 広 会場監督 峯 正一
職業奉仕 妻神 和憲 直前会長 小井田和哉
社会奉仕 地代所久恭 副 幹 事 松本 剛典
国際奉仕 中村 稔彦 会計補佐 山村 和芳

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
http://hachinohe-rotary.org/
会報・広報委員長 峯 正一 同副委員長 荒谷 達也
同 委 員 廣田 茂 同 委 員 道尻 誠助

国際ロータリーのテーマ — 2022~23 — 八戸ロータリークラブのテーマ
イマジン ロータリー ロータリーの力を信じよう!

国際ロータリー会長 ジェニファー・ジョーンズ

八戸ロータリークラブ会長 小林 幹 夫

3 月 は 水 と 衛 生 月 間 で す

第3264回例会 2023.3.15

会 長 要 件 小林 幹夫 会長



今週13日からマスクの着用は個人の判断になりましたので、八戸ロータリーもそれに従って、皆さん個人個人の判断で決めていただければと思います。

と思っています。

今日は昼の通常の例会ではありますが、移動例会でグランドホテルから場所を変えて八戸パークホテルで通常例会を行うことにします。今回場所を変えてみようと思った趣旨は、わたしが会長になった去年の7月の時点ではコロナがどうなるかわからないということもあり、その制約された中で皆さんにどう記憶に残る例会を開いたらいいかを考えました。まず7月にグランドサンピアでウナギを食べながらの例会をさせていただきました。その延長線上で、たまにはグランドホテルの食事ではなく、他のホテルで市内の他のロータリークラブがどんな食事をしているのか味わいながら、昼の例会を行ってみたいということもあり、今日はここパークホテル、来週はプラザホテルと2週連続で行うことになり

ました。

実際に他のクラブにメーキャップするのはまだ制約がありますし、じゃっかんの抵抗感もある中で、他のホテルで食べるのはすごい新鮮だと思っています。ちょっとグランドホテルの例会と違って、皆さんの距離が近いというのもあり、いろいろ感じるころもあるのではないかと考えています。

移動例会に関して、ホテルとの調整や荷物も意外ともものを持ってこないといけないのでそこが大変でした。そこを小田山さんや事務局の山田さんにいろいろ手伝っていただき、本当にありがとうございました。来週もよろしくお願いします。

先週3月11日からポリオ撲滅のためにパキスタンに当クラブの中村成彦さんが行っています。今朝ラインをしたら、ちょうど経由地のバンコクに無事に着いたという報告を受けました。今日の夜の便で明日帰国するそうです。体調はどう？と聞いたら、やはりお腹を壊したという話を聞いています。何とかなっているということを知りちょっと安心しました。

中村さんが帰ってきて落ち着いたら、4月

に入ったくらいにきちんと報告を受けようかと思っています。わたしは以前インドに行きましたが、パキスタンは全然環境が違うところだと聞いていますので、お話を楽しみにしたいと思っています。

幹事報告 正部家光彦 幹事



○来週3月22日の例会はプラザホテルです。

○和気満堂に向けて、来年度に向けてなぞかけをひとつ桜とかけまして アパートの

2階の住人と解く。その心はどちらも開花(階下)が気になります。



卓話



きょうのお食事はどうでしたか？おいしかったですか？グランドさんと違った環境で召し上がってどうでした？月1回 転々とということで次

からもよろしくをお願いします。

以前広瀬さんからコロナ禍の葬儀について話していただけないかということで、



お話をいただきました。コロナ禍中のもの、またコロナ禍明けての今、ちょっと落ち着いた状況を少しお話していきたいと思います。

コロナ禍の葬儀についてですが、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、結婚式、お葬式など冠婚葬祭の行事は感染拡大を抑止するために中止や延期をしたり、規模を縮小したり、コロナ禍以前とは様相が一変してしまいました。さらに新型コロナウイルスに感染し、亡くなった場合、顔を見てのお別れをす

委員会報告

親睦・会場委員会

浜谷英幸委員



○ニコニコボックスの報告

・誕生祝 紺野 広さん

山村和芳さん

本日の卓話ですのでよろしくをお願いします。

正部家光彦・夏川戸 斉 } 山村さん、卓話よろしくをお願いします。
広瀬知明・小林幹夫さん }
小井田和哉さん パークホテルでの例会楽しみです。

*今晚、種市良雄さんの新会員歓迎 I DM を三日町さくら野向いのビルの1階「North 40-40」で午後6時半から行います。

「コロナ禍の葬儀」

山村和芳さん

ることができない。また火葬に立ち会うことができない等、さまざまな制限がありました。

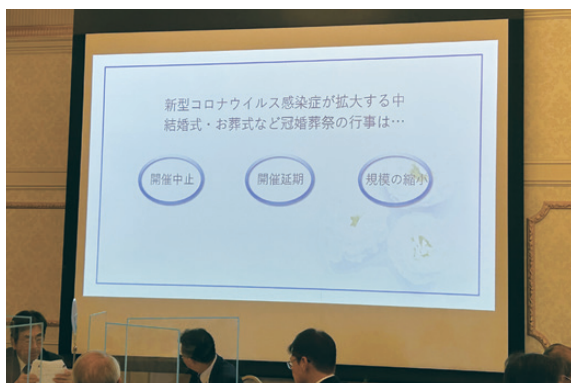
パンデミックの発生から約3年が経過しまして、令和5年1月に政府の感染対策方針の変更に伴い、厚生労働省および経済産業省が公表していた新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方の処置、搬送、葬儀、火葬に関するガイドラインが改正され、指針も大きく変更、制限が緩和されることとなりました。それらを踏まえて、本日はコロナ禍で変化した葬儀の形、さらにガイドライン改正後の現在の状況について話をしていきたいと思

います。
コロナ禍以前よりの葬儀の形は一般葬から家族葬へとシフトしつつありましたが、感染するリスクの高まる三密状態を避けるために家族葬や一日葬などの人数を抑えた小規模な葬儀を執り行う方がさらに増加傾向にあります。家族葬は身内や親族、本当に親しい友人など少人数で行うものです。最近では一日葬ということで、通夜を行わずに火葬と葬儀を行う形もやはり今増えてきている形です。

八戸周辺では菩提寺と呼ばれる、お世話になっているお寺さん（檀家になっているお寺さん）がある場合は火葬のみを行う直葬は菩提があるので行われたい。中には菩提寺があってもお金をかけたくないので火葬だけをする、和尚さんを頼まずにやって欲しいという方もいらっしゃいますが、やはり菩提寺がある以上はきちんと菩提寺を通して儀式を行うのが一般的な形になっています。また、儀式後に行う会食は現在もまだ行われていないのが現状です。火葬通夜が終了した後も、葬儀を終了した後もそれぞれ折詰を準備して、来た方にお配りして帰っていただくのがまだ一般的な形になっています。

コロナ禍の弔問ですが、本来の葬儀では遺族や親族以外にも生前親しくされていた方または近所の方、会社関係の方など一般の会葬者も参列していましたが、現在はやはりコロナ禍ということで遺族、親族、本当に近い方々、関係者（勤めた会社の社長さん、上司など）だけ呼ぶ。一般の会葬者は前後に設けた弔問時間内にホールやお寺にお越しいただいてご焼香して帰っていただくというスタイル。これも今はだいぶ落ち着いてはきていますが、まだ葬儀においてはコロナ禍同様の形がまだ残っています。

弔問の流れとしては、最初ホールやお寺さんに行ったときに受付を済ませて、その後、祭壇前に行ってご焼香、故人様とお別れをして、喪主をはじめご遺族の方々にご挨拶をして、式場に残らずにそのままお帰りいただくという形です。前とは違い、時間を設けることで儀式を小規模で行う場合でも往来通り多くの方にお別れをしてもらうことが可能に



なっているのが今のスタイルです。

どこの葬儀屋さんでもそうですが、それぞれの感染対策ということで会場の入り口などに非接触型の検温機で検温していただいたり、消毒液で手指消毒をしていただいたり、それぞれ寺院やホールに設置して、そこで消毒してから受付をしたり中に入っていたいただきます。お寺を含めて、式場の扉などは締め切らずに開けた状態で、常に空気の流れをよくして換気した状態で行っています。また、葬儀においても和尚さんを含め、皆さんマスクを着用した上で十分な距離を取っていただいて、儀式に臨んでいます。これは場所を問わず同じ形でやっています。

新型コロナウイルス禍での葬儀の注意点ですが、今は落ち着いてはいますが、いくら家族だけで行う葬儀であっても、葬儀社スタッフや火葬場の係員など複数の人の接触は避けられないので、参列する際は今でも必ずマスクを着用してもらうことをまだ徹底しています。

コロナ禍においても、お寺も葬儀場も自粛要請対象ではなく、外出自粛要請が発令されてもそれぞれ儀式を行うことが可能でしたので、それぞれのガイドラインに沿って儀式などを行うことになっています。

コロナ禍でそれぞれお客様からいただいたご意見、感想ですが、コロナ禍当時は本当に参列を辞退する方も多く、代わりにたくさんお花やお供え物をいただいて嬉しかったということでしたが、一般の方が来ないので本当に寂しかったというお客さんがいました。入院中は本当に面会もできないし、お見舞いも断らなければならなかったし、最後の儀式にも呼ぶことができなかった。だからせめて最後は皆さんに送ってもらいたかった。ひじょうに残念という言葉もありました。コロナ禍でもたいへん不安でしたが、皆さんのお陰で少人数ながら無事に終えることができた。大人数で行う葬式とは違いいい式を終えられたという方もいらっしゃいました。新型コロナウイルス対応下の短い期間ではありましたが、納得いく形で故人を送ることができました。

さまざまなご意見をいただきました。

もし仮に、今でもそうですが、コロナ感染でご家族が亡くなられた時どうすればいいのか。これまでは一切故人に会わずにまっすぐ火葬場に連れて行って、お別れもせずお骨だけ引き取って帰るという形でした、以前は。ご遺体は専用の袋を使用したり、お棺に納めた状態で火葬場までお連れしたり、家族には一切会わずに、そのまままっすぐ火葬場に連れていかれる。

当時は感染して亡くなった方の火葬の時間は通常の火葬の時間、八戸は朝9時から15分刻みで2時半まで火葬がありますが、その最後の火葬が終わった後、どなたも一般の方に接することなく、火葬できる時間ということで夕方の遅い時間、例えば5時くらいでないと火葬ができない、それまでは葬儀業者も火葬場に立ち入りできないという形でした。亡くなった方との最後のお別れができない。遺族親族の火葬の立ち合い、収骨（お骨を拾う）立ち合いも一切できなかったのが、改正される前の内容です。

ガイドラインが緩和された後は、ご遺体に適切な対策を取れば専用の袋に入れる必要はない。感染する恐れがないから入れなくてもいい。適切な対応は病院と施設できちんと詰め物をしていただく。鼻や口など何かが出てきそうなところには脱脂綿できちんと封をしてもらった状態であれば、袋に入れる必要はない。触れた後もきちんと適切に手洗い、消毒をすれば故人にも触ることができるという形になっています。

ただし、故人の状況により、どうしても袋に入れなければならないという場合も中にはあります。例えば、損傷がひどい場合もあれば、解剖したあと、体液が出てくるリスクをひじょうに伴う場合にはどうしても専用の袋に納めさせていただかなければならない、ということがあります。ご遺族の方のご意向などもありますので、そういったものを踏まえて適切に感染対策を講じて火葬を行うのが改正された後の内容になっています。

適切な感染対策が実施されている場合でも、

感染症によって亡くなられた方、ご遺体、それ以外のご遺体で火葬時帯を今はわけていません。先ほどいいましたように、一番最後の火葬でなくても、例えば通常通りの9：00～14：30までのどの火葬の時間帯でも火葬を行えるように改正されました。お骨を拾うときにも、ご遺族の方の意向を踏まえて、やはり適切に感染症の対策を講じて拾うこともできるようになりました。

適切な感染症対策はガイドラインに記載されていますが、詰め物をきちんとして、消毒もしてもらって、感染の恐れがない状態であれば、ご納棺のときも皆さんでお手伝いいただきながら旅支度をしたりなど、そういったものも今はやるようになりました。やはり病院から棺に納めた状態で家に連れて行ったり、葬儀場に連れていったりということをしなくても、お布団にお休みいただいた状態で家や会場に連れていくことが可能になりました。儀式と火葬以降のお通夜葬儀についての考え方も多少変わってきています。例えば故人がコロナ感染で亡くなられても家族が濃厚接触などがなければ、儀式にご参加いただける。発熱などもなければ通常とおり、打合せも含めて立ち会えるという形になっています。やはり中には無症状でも濃厚接触者でも対面を避けるというのがまだ推奨されています。ほぼ病院や施設などであれば今は面会を制限されているので接触はないのですが、中にはご自宅で亡くなって、実はコロナに感染して亡くなったという方もいます。そういうときは家族が濃厚接触者という扱いになりますので、実際に病院に足を運んでもらって検査をしていただき、その後の結果次第でその後の予定が決まってくる形になります。

マスクも13日から皆さんの任意になっています。月13日以降は個人の判断でということが基本と国で発表しましたが、わたしたちはどうしてもいろんなお客様と対面する場面が多いので、やはりわたしたちの会社としてはやはり常に着用して業務に当たる。ただお客様にはそこを強制できないので、お客様の意思に合わせてマスク着用していただいて、

儀式に参加していただく形です。当社では引き続き感染症対策として、今まで通り消毒の徹底、検温も今まで通り行います。席の間隔もやはり今まで通り間隔をとって感染症対策を講じながら、儀式に臨む形で進めていく指針で進んでいます。コロナ禍で改正される前、改正された後の違いをお話ししました。

質疑

Q 1 広瀬知明さん：

A 1 山村：コロナ禍になって3年経過して、その3年の間に今のスタイルが浸透してしまっているので、それが果たして5月8日以降に変わっていくかどうかは、まだそこは変わっていかないと思います。やはり和尚様方の体に馴染んでしまっているところもありますし、感染したくないという和尚様方もひじょうに多い。今のスタイルから変わるかという、たぶん変わらないと思います。

これは同じ業界でもどうなるのかという話

はしていますが、もう3年続けて浸透しているので、それを今更むかしの戻すかというたとぶん戻らない、という話はしています。和尚さん方も何人かと話をすると、もうこのスタイルでいいんじゃないの。自分たちも動きが取りやすい。次にどこかのお勤めに行けるなど時間調整もできる。

戻ってくるとすれば恐らくお通夜、葬儀が終わった後の会食を徐々に始めてもいいんじゃないのという動きにはなっていますが、儀式自体はたぶん変わらない。お布施の話もでしたが、お布施は和尚様方によって違います。コロナ禍になって安くなったのかというところではなく往来通りの決まった金額で納めていただくという形になっています。

Q 2 築館智大さん

A 2 山村：特にないです。パワーポイント自体はうちのスタッフがわたしが作った文章に合わせてやってくれています。

出席報告					出席委員会			
第3264回例会（3月15日）			第3262回例会（3月1日）					
出席率		60%	出席率		56.7%	修正出席率	61.7%	
総会員数		62名	出席数	36名	総会員数		61名	
出席義務会員		60名	出席免除会員		2名	欠席数		24名
出席義務会員		60名	出席免除会員		1名	欠席数		23名